

# マバカ古墳第6次発掘調査現地説明会資料

天理市教育委員会 文化財課

## 現地説明会日時

令和8年2月21日(土) 13:30~15:30

所在地 天理市萱生町・成願寺町

調査期間 令和8年1月22日~

令和8年3月上旬

調査担当 天理市教育委員会文化財課

主査 村下博美

## 1. はじめに

天理市教育委員会では大和・柳本古墳群の基礎調査を継続的におこない、その保護と保存に取り組んでいます。このたび大和古墳群の基礎調査に伴いマバカ古墳の発掘調査を行いました。

## 2. マバカ古墳の概要

マバカ古墳は天理市萱生町と成願寺町に所在する全長約74mの前方後円墳で、大和古墳群中の萱生支群に属しています。龍王山から延びる尾根上に前方部を西に向けて築かれており、同じ尾根上には東に波多子塚古墳、西に埋没古墳であるマバカ西古墳が築かれています。

## 3. これまでの調査

### 権原考古学研究所

昭和52(1977)年の測量調査により、全長約74m、後円部径約44m、前方部幅約27mの前方後円墳とされています。その後、平成14(2002)年度に前方部西側で第1次調査、平成15(2003)年度に前方部北西側で第2次調査が実施されました。その結果、前方部西側と前方部北西で「濠状区画」、前方部西側で「前方部墳端の可能性のある列石」と「墳丘裾廻りのバラス敷き」が検出されています。また、「濠状区画」からは古墳時代初頭の土器が見つかりました。

### 天理市教育委員会

令和3(2021)年度に航空レーザ測量を実施しました。その結果、前方部南側面を除く墳丘のほとんどが改変を受け、築造時の形状とは異なることがわかりました。

令和4年度(2022)年度には天理大学と共同で、後円部北側で地中レーダ探査をおこないました。

令和4・5年度には前方部と後円部の間のくびれ部の状況を確認するため、くびれ部付近を発掘調査しました(第3・4次調査)。調査区北寄りでは、墳丘からの転落石を確認し、調査区南端の道路際で、葺石と基底石を確認しました。基底石列は後円部側に向かって緩やかに弧を描いており、この調査で見つかったのは前方部側のくびれ部付近にあたると考えられます。

令和6年度には後円部の北側に調査区をもうけました(第5次調査)。調査区南端で後円部墳丘裾と考えられる地山の立ち上がりと、周濠となる落ち込みを検出しました。また周濠の北側にみられた礫群は地山の堆積の一部であることがわかっています。さらに第4次調査区の一部を再掘削し葺石の断ち割りをおこなったところ、裏込めは見られませんでした。

## 4. 第6次調査の成果

前方部北側(第1調査区)と南くびれ部付近(第2調査区)に調査区を設定しました。

### 第1調査区

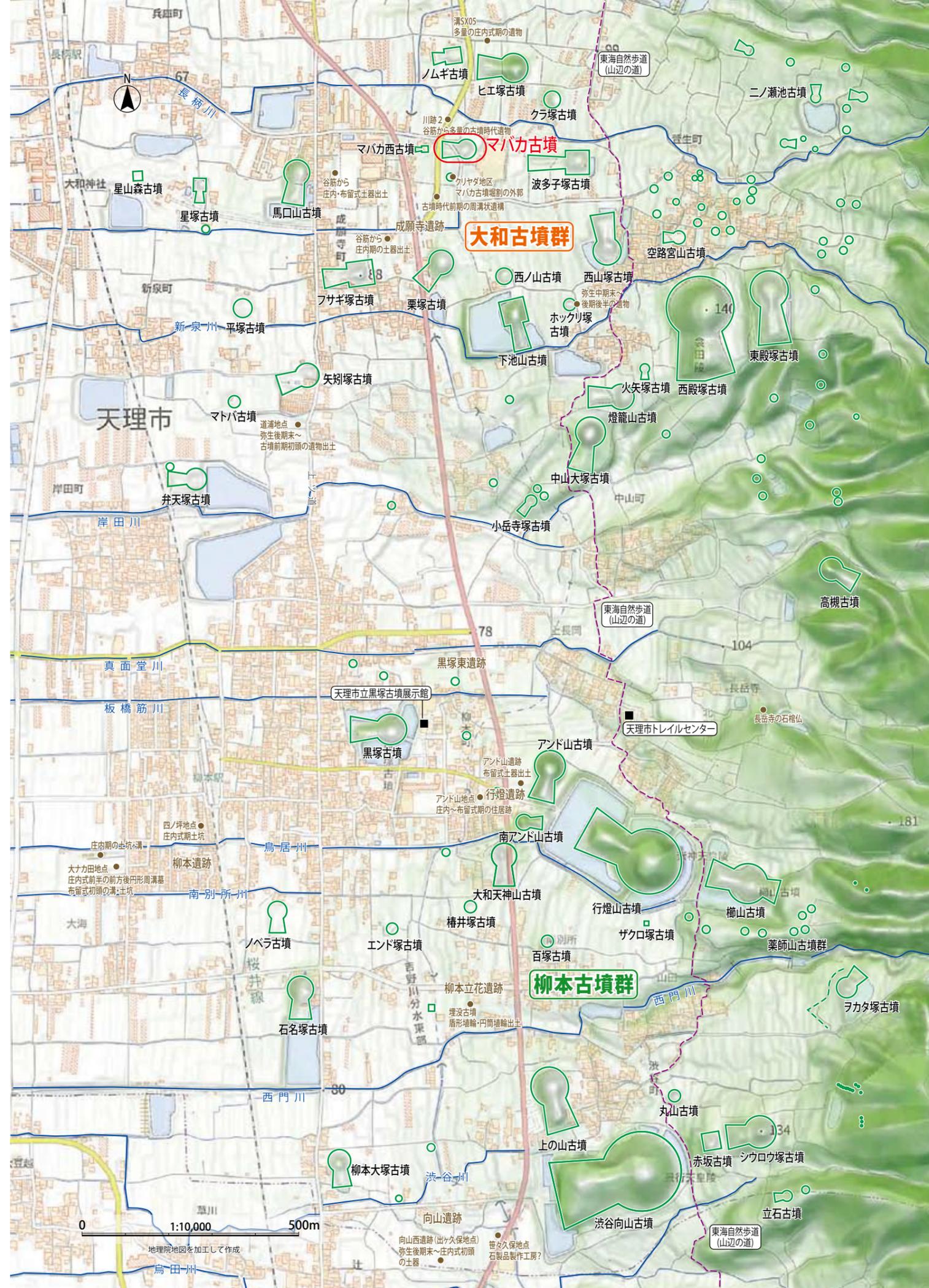
調査区南端で基底石の可能性のある石材と、その前面に落ち込むように葺石転落石と考えられる拳大から人頭大の礫群を検出しました。基底石の可能性のある石材は長辺が30cmほどあり、長軸を墳丘方向に向けて地山の上に据えられていました。一部は後世の攪乱の影響を受けていましたが、第4次調査区で検出した基底石の方向へ並ぶ状況を確認しています。

### 第2調査区

調査区全域で、葺石転落石と思われる拳大から人頭大の礫群を検出しました。検出面はほぼ水平で、転落石の下は地山となる砂質土層を確認しています。したがって検出した礫群は墳丘の外側に転落したものと思われ、調査区の北側に墳丘裾が存在する可能性が考えられます。

## 5. おわりに

マバカ古墳の墳形・規模を考える上で貴重な材料を得ることができました。今後も継続して大和古墳群の基礎調査をおこない、将来的な史跡指定を目指していきます。



■ 第1調査区



調査区全景(西から)



調査区全景(北から)



基底石の可能性のある石材(西から)

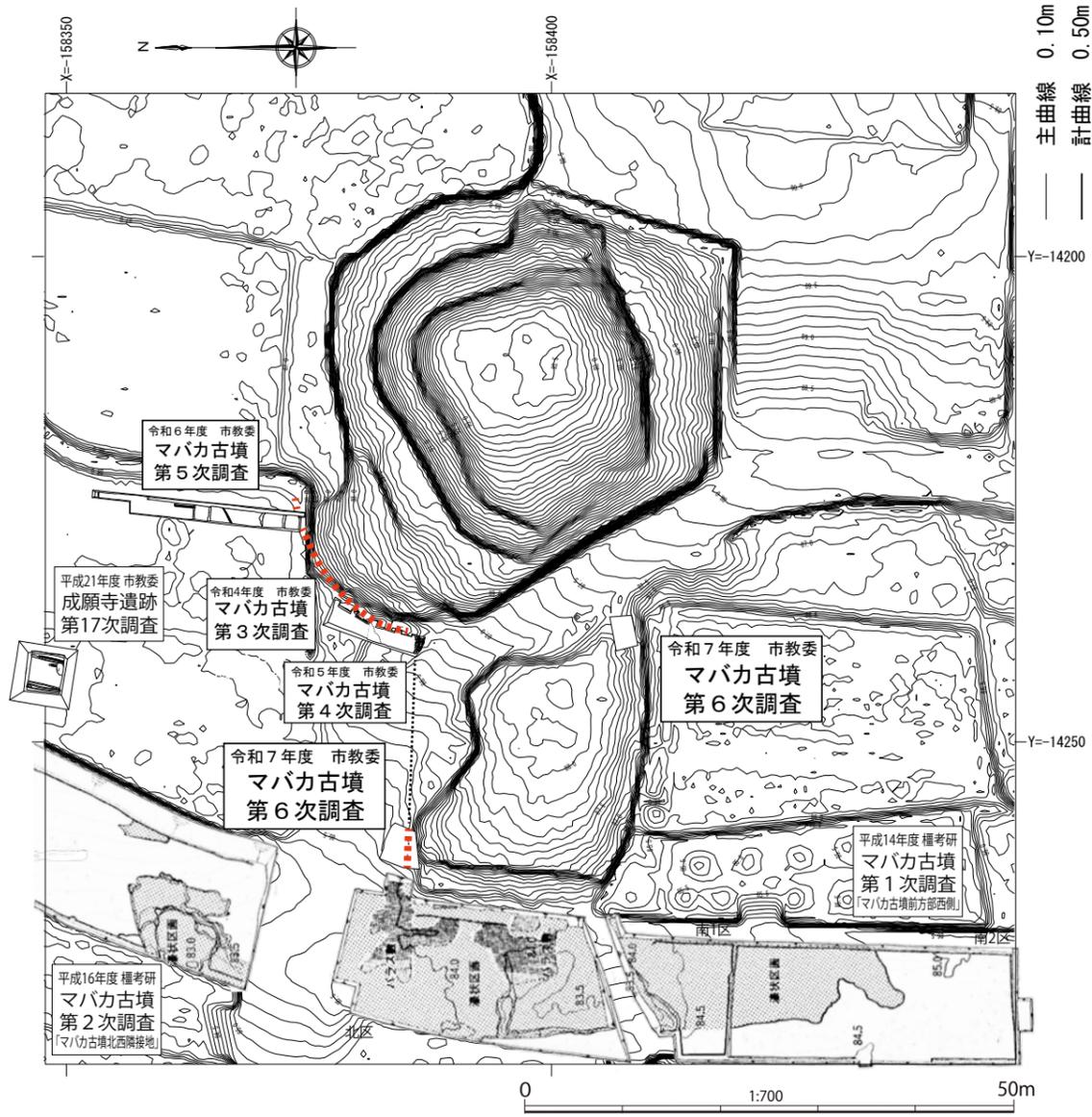
■ 第2調査区



◀調査区全景(東から)



調査区全景▶(西から)



調査区配置図